

- ・協定締結・表敬訪問 …… (1)
- ・留学生関係 …… (2)
- ・留学生関係 …… (3)
- ・国際交流センターから …… (4)

## 新モンゴル学園と協定締結

平成28年1月にモンゴル国・ウランバートルにある新モンゴル学園と大学間協定を締結いたしました。両機関の学術教育の発展のため、相互協力を深めることを目的としたものです。新モンゴル学園は、国際的な人材育成を目的として2014年4月に設立された新しい法人であり、新モンゴル工科大学、新モンゴル高専、新モンゴル高校の3つの教育機関から構成されています。2013年に設立された新モンゴル工科大学は、8学科（情報通信工学、物質工学、機械工学、電気電子工学、人工システム科学、環境工学、建築工学、バイオ・ナノ工学）から構成され、世界のトップ大学や研究機関とのネットワークの構築のため、日本のみならず世界各国の大学等と国際交流を進めているとのこと。また、新モンゴル高校を卒業した多数のOB・OGが本学に留学していることから、秋田大学とは縁の深い機関でもあります。

今回の協定締結に先立ち、昨年8月にウランバートルを訪問して新モンゴル学園のガルドラツハ理事長と面会いたしました。高等教育を通じてこれからのモンゴルを支える人材を育成するという強い意志を感じました。モンゴルは膨大な鉱物資源を有する国であり、協定校の構築は秋田大学が進める「資源学」分野の研究促進にも有益なものとなるでしょう。今後は新モンゴル高等学校への教育支援、新モンゴル工科大学との研究者交流、シンポジウムの開催といった事業を検討したいと考えております。

（佐藤 時幸：Sato Tokiyuki 国際資源学部長）

## モンゴル科学技術大学の訪問

3月8日から12日まで、本学の協定校であるモンゴル科学技術大学から、Delgermaa副教授を含む教員6名が本学を訪問しました。物理、機械、生産工学、応用科学など幅広い分野の教員で構成されたモンゴル科学技術大学訪問団は、9日に大学院理工学研究科、11日に国際資源学部を訪れました。

大学院理工学研究科では、山村副研究科長からご挨拶と理工学研究科の紹介を行っていただいた後、モンゴル科学技術大学訪問団より、今回の訪問の目的である「工学系高等教育支援事業」の説明がありました。今回の訪問は、モンゴル科学技術大学と共同研究を行うパートナーを見つけることが目的であることが説明されました。

山村副研究科長との懇談の後、理工学研究科物質科学専攻応用化学コース及びシステムデザイン工学専攻機械工学コースの教員とのミーティングが行われ、共同研究の実現可能性について意見交換が行われました。

国際資源学部では、学部及び国際資源学教育研究センターの概要説明の他、選鉱・製錬分野に関する実験設備（浮選機、オートクレーブ、乾式試験炉、電解装置等）、VBL棟に設置されている分析機器（ICP、XRD、SEM、XRF等）に関する説明を行いました。また、石油資源開発技術に関する意見交換も行いました。

今回の訪問をきっかけに、両大学間のさらなる教育・研究交流が進められることを期待しております。

（高崎 康志：Takasaki Yasushi 国際資源学研究科）

（山本 達人：Yamamoto Tatsuhito 理工学研究科事務部）他

## トリサクティ行秋田訪問

本学が2014年6月に大学間協定を締結したインドネシア最大の私立総合大学である、トリサクティ大学地球工学・エネルギー資源学部の教員及び学部学生34名が秋田大学を訪問しました。これは共同研究などですでに密接な関係にある両校の友好を深め、さらにトリサクティ大学生に秋田県内の多様な資源開発現場見学や地質巡検を経験させて見識を深める目的で実施されたものです。一行は5月9日に秋田に到着し、翌10日にはキャンパス及び鉱業博物館見学を行った後に秋田ビューホテルにおける歓迎パーティーに参加しました。11日は国際資源学研究科佐藤時幸教授の引率で男鹿半島地質巡検が行われ、石油根源岩や貯留岩に関する知識を得ました。11日は今井亮教授らの引率で尾去沢鉱山を中心とした秋田北部の金属鉱床に関するフィールドトリップ、さらに12日には藤井らの引率で八幡平周辺の澄川地熱発電所及び玉川温泉の噴気地帯を見学しました。連日の日程は長丁場でかなりハードなものでしたが、学生達は疲れを見せず精力的に見学に参加し、各現場では非常に盛んな質疑を行いました。国際資源学研究科では今後も同校を含む協定校との交流活動をさらに活発化する予定です。

（藤井 光：Fujii Hikari 国際資源学研究科）



## 新留学生オリエンテーション

4月5日、国際交流センターでは新留学生を対象に、「平成28年度1期秋田大学外国人留学生オリエンテーション」を実施しました。キャンパス生活をする上で必要な施設や手続き等のほかに携帯電話の契約やホストファミリーについての説明が行われ、新留学生は熱心に耳を傾けていました。

オリエンテーション終了後は、大学会館を会場に近隣住民を招いての歓迎会を行いました。新留学生の自己紹介や秋田大学サークル“Borderless”の学生からの活動紹介もあり、有意義な交流の場となりました。

(高橋 幸江 : Takahashi Yukie 国際課留学生交流・支援担当)

## 第一回留学説明会

5月11日、秋田大学交換留学制度および海外短期研修についての説明会を実施しました。留学を検討中の日本人学生が参加し、留学準備に必要な情報収集を行いました。

「多様性を全身で感じながら世界中の英語を理解したい」という思いを長年抱き続けてきた私にとって、イタリアへの留学は自分の夢に近づく絶好の機会となりました。

イタリア人やフランス人、ハンガリー人、ルーマニア人、トルコ人の学生たちとシェアハウスで1年間生活し、単に語彙が増えただけでなく人としても大きく成長出来たように感じています。日本人の居ない環境を敢えて選択した自分にとって、イタリアで出会った友人から言われた「お前にはヨーロッパにも家族がいるということを忘れて欲しくない。辛い事が起きたらいつでも戻っておいで。」という言葉が1番の宝物です。

この留学を通じ、私は日本と海外の懸け橋となり、社会全体のために何か少しでも良い影響を与えることの出来る人間になりたいと深く考えるようになりました。今後も沢山の文化に出会い、様々な課題と向き合いながら、自分の人生、そして世界中をもっと豊かにしていきたいです。



(藤森 鉄平:Fujimori Teppei 教育文化学部 国際言語文化課程4年次)

## 留学フェア

5月16日～5月17日、秋田大学で学ぶ交換留学生および留学を終えた日本人学生が海外協定校の紹介を行いました。大学生活や治安を含む日常生活について、参加者から多くの質問がありました。

My name is Matthew and I am on exchange from Griffith University in Australia. For students interested in doing an exchange to Australia, Griffith University has several campuses located in the Brisbane Gold Coast area. I

only have personal experience of the Nathan Campus. This campus is located in a forest, but is only a short bus ride to the shops, supermarket and Brisbane CBD. It has modern buildings and student facilities such as a well equipped gymnasium. The weather is much warmer than Akita and I promise you will never see snow. On average the coldest day in Brisbane is 21 degrees and the coldest night about 8 degrees. If you like warm weather and not having to wear winter coats and scarves, this is the place for you.

As a mature age student studying languages, I am unsure of what the young students of Akita University are interested in when choosing an exchange university. So I asked my Japanese friends I met last year while they were on exchange at Griffith University, Nathan Campus. Many of my Japanese friends enjoyed being able to meet and interact with people from Australia and many other nations. Griffith University does not segregate exchange student and local student accommodation. So if you are living in university accommodation you will be sharing an apartment with people from all over the world. Last year my apartment included people from Japan, China, Denmark and Australia. For students interested in improving their English ability, you can practice your English conversation everyday. Additionally many of my Japanese friends commented on how much they enjoyed the natural surroundings. Especially the koalas. As Nathan campus is located in a forest there are koalas living in the area. If you are lucky you can see them from time to time. If you would like to know more about Griffith University please visit their website at [www.griffith.edu.au](http://www.griffith.edu.au).



(Matthew Philips : 教育文化学部 特別聴講生)

## ★ ハイファ大学留学記

ハイファ大学は青々とした美しい地中海が目の前にひろがるハイファの山の上にあります。世界中からの留学生、ユダヤ人とアラブ人の学生たちがともに学んでいるのが特徴で、それぞれの宗教が互いを尊重しあいながら共存している「自由と平等の町」と呼ばれるハイファを体現しているような大学です。そこでのヘブライ語、歴史、文学の勉強はとても興味深く、さらにイスラエルに対する関心が広がりました。

イスラエルは世界のベストセラーである聖書の世界そのものです。大学があるカルメル山も旧約聖書に登場する有名な山です。留学中はよく大学や友人との旅行でイスラエルの北から南まで様々な場所を訪れましたが、聖書の舞台を目の前にしたときの感動を通して、さらに聖書の内容が身近なものへととなりました。この経験は私にとって一生ものです。

聖書の舞台、様々な祭り、食文化や人々の温かさなど、私はイスラエルにすっかり魅了されてしまいました。そして、さらにこの国について知りたいという思いが湧いてきました。ヘブライ語やイスラエルの歴史や文化についての学びをこれからも続けていきたいと思っています。ここで得た学び、経験や出会いがこれからどのように今後につながっていくのかとても楽しみです。



(村岡光 : Muraoka Hikari 教育文化学部 国際言語文化課程3年次)

## 冬の伝統行事体験（火振りかまくら）

2月13日に仙北市角館で開催された角館火振りかまくらに秋田大学の留学生20名が参加しました。

火振りかまくらは、炭俵に1メートルほどの縄を結び、その俵に火を付けて縄の先端を持って自分のからだのまわりを振り回し、神聖な火で田んぼの厄を払うとともに、家族の無病息災・家内安全など、一年の無事を祈願する行事です。

火振りを体験した学生からは、「とても貴重な体験をすることができた」「楽しかった」との感想を聞くことができました。

(小松 みずほ : Komatsu Mizuho 国際課留学生交流・支援担当)



## 草木谷田植え体験

5月28日に、石川理紀之助ゆかりの集落である潟上市昭和豊川の「草木谷」で行われた田植え体験に、留学生や研究員など20名が参加しました。当日は「草木谷を守る会」の皆さんのご指導のもと、地元の小学生・高校生を含め総勢150名で田植えを行いました。

Hello everyone!!! My name is Mikail and I am from Turkey. I am a visiting researcher.

First of all I want to point out what rice means in Japan. The rice is the core food in the Japan. Besides rice itself also products of rice such as sake, mirin, and sushi etc. are also have important place in Japanese cuisine and Japanese culture. Because of ultimate importance of rice, many rice planting or rice harvesting events are held in Japan.

To observe and to be part of this tradition we joined to rice planting event. When we reached the rice field we met with other people from different ages, different schools. There were many students from elementary school to graduates, teachers and professors also from different ages such as children, young people and respectable elders. We all together with harmony and solidarity planted the rice seedlings. We all experienced hardships of rice planting and we all enjoyed. After we finished planting thanks to our kind hosts, they served "onigiri" and traditional foods. While eating and enjoying our food, we watched a dance performance from children. After this event, I am sure that all of us respect this "sacred" food even more.

We are really lucky that our honorable and kind host invited us to harvest and drink "sake". I am really looking for it!!!

Thanks to organizers and holders this event we were all able make pleasant memories.

どうもありがとうございました!!!

(Mikail Basyigit : 国際資源学部 研究員)

## 農家民泊 in 横手市

6月4日～6月5日の日程で、「日本社会入門Ⅰ」の履修生が横手市の農家に民泊し、田植えや畑仕事等の農作業を体験しました。体験を通して、秋田の農業の実情と農家が行うグリーンツーリズムの意義を学びました。

みんなと一緒に合宿に行きました。1泊2日の合宿の中で、わたしたちは田植えをしたり、温泉に入ったりしてすごく楽しかったです。一番印象深いのは、牧場のことです。りんごを馬に食べさせた時、馬の大きくてきれいな目に感動させられました。目は口ほどものを言う。言葉が通じなかったけど、目だけで、動物の優しさが感じられます。その後わたしたちは温泉に入りました。最初はわくわくしていたけど、熱くて温泉の中に五分間も居られませんでした。温泉から出た後に友達的美玖ちゃんは、日本人には温泉に入った後冷たいミルクを飲む人が多いとわたしたちに教えました。買って飲んでみたら、やはり最高でした。わたしは温泉にはあまり入れなかったけれども、その気持ちは大体わかるようになりました。

その後わたしたちは農家のお母さんとお父さんの家に帰りました。お母さんは地元の料理を作ってくれて、本当に美味しかったです。そして素敵なプレゼントをいただきました。本当に嬉しかったです。夜になって、蕨と枝豆の料理を食べながら、蛙の声を耳にして、初夏の風情を感じました。

私は中国の北の方で生まれたので、水田で田植えをするのも初めてです。靴下だけで水田に入ると、自然に触れた喜びが感じられました。そして、今回の合宿のおかげで、いろいろな友達ができしたのは、本当に貴重な体験だと思います。



(韓 晴晴 : HAN QINGQING 教育文化学部 特別聴講学生)

## タイ王国訪問団附属小中学校訪問

5月20日に、タイ王国視察団による教育文化学部附属小学校及び附属中学校への訪問がありました。今回の訪問は、タイとの交流を強化している秋田県からの要請によるもので、タイからの視察団一行の中に学校関係者がいることから、授業視察を行ったものです。

一行は、附属小・中学校での授業を興味深く参観し、生徒からの質問にもユーモアを交えて答える場面もありました。授業参観後は、校長・副校長等との懇談が行われ、教育交流の充実が図られました。

(佐藤 哲也 : Sato Tetsuya 国際課長)



## 第6回秋田大学研究者海外派遣事業報告会

この度、2014年7月より12月までの6カ月間、ドイツのハノーファーにあるSports Clinic Germanyに滞在し、変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術の最先端を学んでまいりました。Philipp Lobenhoffer教授が韓国にいらっしやった際に、フェローシップに関し、直接オファーし、受け入れてくださることになりました。Sportsclinic Germanyでは年間3000件の手術件数があり、膝関節だけでなく肩関節や股関節の手術も盛んに行われており、ヨーロッパの最先端の手術技術に触れることができました。また、空いた時間を利用して、秋田大学で世界に先駆けて行われた大腿四頭筋腱断裂に対する関節鏡視下修復術を英語論文化することができました。非常に有用な半年であったと自負しております。この場をお借りして再度、深謝申し上げます。

(齊藤英知：SAITO Hidetomo 附属病院リハビリテーション科)



秋田チーム訪独

### 国際交流センター人事情報 (4月1日付)

山本 文雄 国際交流センター長 兼・副学長 (国際担当) →学長就任

佐藤 時幸 (大学院国際資源学研究科教授) →国際交流センター長 兼・副学長 (国際戦略担当)

### 新センター長あいさつ

今でこそ海外に出かけることは普通のことになりましたが、私が初めて海外出張に出かけた30年以上前は、30万円ほどのトラベラーズチェックを銀行で作り、それを大きなパスポートや薄い紙の航空券の束と一緒に大事に懐に隠して中東に出発しました。今では日本人が海外に出かけることは普通のことであり、一方で多くの留学生が学内で勉学に励むのも日常になるなど隔世の感があります。研究面をみても、インターネットの普及とも相まって海外の研究者との共同研究、研究成果の国際誌への投稿なども普通であり、生活はもちろんのこと、研究・教育いずれにおいても日本と海外諸国の間に垣根は感じられなくなっています。



国際交流センターは、秋田大学が世界と交流する際の重要な窓口です。教職員・学生が普通に海外と交流する、キャンパス内では留学生と日本人の区別無い日常が展開される、そのような国際交流をより一層押し進めるべく、センター教職員とともに努力致したいと思っております。

(佐藤時幸：Sato Tokiyuki 国際交流センター長)

### 専任教員科研費助成事業採択結果一覧

研究代表者	種目	交付金 (単位：円)		研究課題名
		直接経費	間接経費	
佐々木 良造	基盤C	900,000	270,000	在日外国人情報弱者のための母語による子女の学校教育関連情報提供システムの構築
市嶋 典子	基盤C	1,200,000	360,000	中東地域の日本語教師と学習者の言語意識の把握と相互理解を目指した実践モデルの構築
平田 未季	若手B	900,000	270,000	共同注意確立活動における指示表現の選択と対話相手の注意の調整

### 国際交流協定校情報

大学間協定 (合計29ヶ国・地域:57大学等)

(2016年1月28日現在)

部局間協定 (合計9ヶ国・地域:16学部等)

(2016年3月7日現在)

### 秋田大学の留学生数

合計218名 学部生：89名 大学院生：67名 交換留学生・研究生等：62名